

1 学校教育目標	2 本年度の重点目標
<p>かがやく大野原っ子の育成 ～人間性豊かで、自ら学ぶ児童生徒の育成～</p>	<p>(1) やる気いっぱい・・・確かな学力の定着と向上を図る。 (2) 笑顔いっぱい・・・思いやりの心、豊かな心を育てる。 (3) 元気いっぱい・・・元気で健やかな心身を育成する。 (4) わくわくどきどき(交流体験)いっぱい・・・地域愛に満ちた、豊かな人間性や社会性を育てる。</p>

A:十分達成できた
 B:概ね達成できた
 C:やや不十分である
 D:不十分である

3 目標・評価

(1) やる気いっぱい・・・確かな学力の定着と向上を図る。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	●学力の向上	ICTを利活用した授業実践の深化	児童生徒の学習内容の理解を深めるために、ICT機器を効果的に活用する。	ICT機器利用の研修会を年間2回行い、スマホ等を組み合わせた多様な使い方についての技術向上を図る。 ICT機器の利用についての情報交換を積極的に行う。 授業研究でICT機器を活用する。	A	年間3回のICT研修会を実施し、職員の意識向上と技術向上を図った。 ワードを使った授業の導入や、図形の提示方法を獲得することができた。 職員のICT利活用の意識は高く、授業で効果的な使い方をできている。	ワードやエクセルの中にも、授業に生かすことのできる方法がまだまだ数多くある。電子黒板を授業で一層生かすためにも、 基本ソフトの使い方を今一度見直し 、ICT研修会で実施する。
		めあてとまとめの明確化 自分の考えを説明する場 個に応じた適切な支援	「授業がよくわかる」と答える児童生徒の割合を90%以上にする。	常に「めあて」と「まとめ」が対応した授業実践を徹底し、個に応じた手立てを取り入れた授業を行う。 ペア学習の工夫や説明する場を取り入れた授業を行う。	B	研究授業を全員実践し、小中間でよさを共有することができ9年間を見据えた授業実践ができた。 「めあて」と「まとめ」を意識した授業が実践でき、わかりやすい授業ができた。	個に応じた手立てとして、 基礎学力の定着とともに、習熟の程度が高い児童生徒への指導の計画を立て、実施する。
		学習規律の徹底 支持的な学習環境づくり	「毎日忘れ物をせず、授業前に学習用具を準備して待つことができる」児童生徒の割合を90%以上にする。 児童生徒が相手の意見や存在を尊重し、お互いに認め合う関係作りに取り組む。	帰りの会の中でも、持ってくる物の確認をさせる。 授業開始2分前には席に着き、学習用具を机上に準備して待つように指導する。 友達が発表している時に、同調するときは、うなずかせる等、発言しやすい雰囲気をつくる。 学習に関連した掲示物の充実を図る。	B	毎日忘れ物をせず、授業前に準備を済ませて席についている児童生徒の割合は、88.9%である。目標の90%まであと一歩という結果であったが、 学習に向かう児童生徒の意識は随分改善 されてきた。 昨年度に続き、「友達の発表を真剣に聞くことが出来る」また、「話す人の方を向いて最後までしっかり聞き、分かってもらう」児童生徒の割合はどちらも100%であった。よく聞こうとする意識をもつことについては、十分達成できている。	学習用具忘れがないように、持ってくるものを黒板に書かせ、更に帰りの会の中でも、 持ってくる物を連絡帳に確実に記入させる。 授業に臨む際の意識の向上を図るために、落ち着いた状態でスムーズに授業に入るように、開始2分前には学習道具を準備をして着席させる。 児童生徒同士が認め合いながら学習できる環境整備を行う。
		家庭学習・読書の習慣化と質の向上	「宿題以外にも自分で考えて家庭学習を行っている」児童生徒の割合を80%以上にする。 1週間で、小学生低学年は6冊、中学年は4冊、高学年は3冊、中学生は2冊以上、図書室の本を借りるようにする。	「自主学習の手引き」などを活用して学習指導を行う。 継続的に家庭生活アンケートを行い、学習や生活の実態を把握する。 様々な人権問題を題材に、集会や職員研修を行い、児童、生徒、職員の人権意識の向上を図る。 生徒指導上の諸問題に関するケース検討会などの職員研修を開催する。	B	学習環境部では校内掲示、清掃美化、新聞を使った学習環境をつくることでの 3点について活動を行い成果 を上げることができた。 年度当初に学年に応じた「 自主学習の手引き 」を作成し、各学級で活用してもらうことができた。宿題以外に自分で考えて復習等を行っている児童は89%、生徒は67%であった。 1年を通して、お手本となるような自主学習を展示するスペースを作り、児童生徒の意欲向上につなげることができた。 読み聞かせや多読賞、自学の表彰で児童生徒の意識を向上させることができた。	生徒の自主的な勉強については、手引きについて改めて解説し活用を促す。また、各担任は、 宿題と自学との分量のバランスを調整し、個々に必要な家庭学習を自ら進めて 成果を挙げられるようにする。また、担任が、生徒の家庭学習状況を的確に把握し、教科担当や家庭との連携を図る。 研究目標を達成 するためにはどんな部会が必要か、研究組織編成の段階で再検討する。

(2) 笑顔いっぱい・・・思いやりの心、豊かな心を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策	
教育活動	●いじめの問題への対応	互いを尊重しいじめを許さない学校風土の醸成	相手の立場を尊重し、互いに助け合い励まし合う人間関係の定着を目指す。	前年度に引き続き、全職員でいじめ防止にあたり、「先生あのね」や教育相談活動を定期的に行う。 様々な人権問題を題材に、集会や職員研修を行い、児童、生徒、職員の人権意識の向上を図る。 生徒指導上の諸問題に関するケース検討会などの職員研修を開催する。	A	「 学校で安心して生活できている 」児童生徒の割合が 100% であり、「困ったときは先生が声をかけてくれる」児童生徒の割合も100%であり、いじめのない学校づくりの成果があがっていると思われる。 「先生あのね」では問題が出てこないが、日々の生活の中で気になる児童生徒の話題を職員間で話す機会があり、対応について話せる雰囲気があるのはありがたい。	引き続き「先生あのね」や教育相談活動を定期的に行い、全職員でいじめ防止にあたる。 校内だけでなく、様々な人権問題を題材に集会や職員研修を行い、児童生徒・職員の人権意識の向上を図る。 担任や職員の気づきにより、対応について話し合い、共通理解の場を持って取り組む 教育相談体制を継続 していく。	
		●心の教育	道徳教育の充実、道徳的心情、判断力、実践意欲の育成	道徳の授業で人とのより良い関わり方を学び意識して生活している児童生徒の割合を90%以上にする。	複式学級における道徳の教育課程の編成や授業内容を工夫し、授業の充実を図る。 年間計画をもとに、見直しをもって「考える道徳」の授業実践に取り組む。	A	アンケートの結果、「道徳の授業で人とのより良い関わり方を学び意識して生活している」と回答した児童は94.4%生徒は100%であった。 全担任が「道徳の授業を計画通りに実施できた」と答えており、見直しをもって授業実践ができた。 小学校では、校内研修で学んだ 少人数及び複式学級での指導の留意点を踏まえた授業を実践 することができた。	本校の 新しい年間指導計画(他教科との関連、A年度B年度版) による指導を行い、 更にカリキュラムの充実 を目指して検証する。 誰もが資料やワークシートなどを使用できるように、教材を整理、管理する。
		○多様な交流活動の充実	集会活動、交流活動、ボランティア活動等の児童・生徒会活動の活性化	児童会活動と生徒会活動を統合し、諸活動の効率化と活性化を図る。 昨年度同様、地域や他校との交流活動を積極的に行う。	大野原小中独自の新しい児童生徒自治組織「あすなる会」の活動を活性化するために、小中の時間割やカリキュラムの調整を行う。 全校児童生徒が「あすなる会」に属することとし、規約を見直し(児童にも分かりやすい文章の規約を作成)、オリエンテーションを開く。 児童生徒自身が企画・運営する行事や集会を積極的に開く、自主性と愛校心を育てる。 様々な交流活動について活動を精選し、一つ一つの活動にじっくり取り組めるようにする。	A	分かりやすい規約にするために見直しを進める ことができた。 例年通り神社の祭りに協力するとともに、空き缶・空き瓶回収のボランティア活動に積極的に取り組むことができた。 95%の児童生徒が、あすなる会で積極的に意見を述べたり、自分たちで活動していると回答している。	中学生の生徒数減少にともない、 毎日の活動(ルーティンワーク)や、様々な活動の内容や方法について見直す。
		○特別支援教育	困り感をもった児童生徒の情報共有、計画に基づく支援 家庭・関係機関との連携	児童生徒の困り感を察知できるように努める。 困り感を持った児童生徒への支援が上手くいくように、職員の共通理解を図り、計画的な支援に努める。 保護者との連絡を密にする。	児童生徒対象に月1回アンケート調査を行い、子供達の悩みに対応する。 特別支援学級の児童生徒については、個別の支援計画及び個別の支援計画を作成し、成長や変容を見ながら、保護者と連絡を密にして支援を適切に行う。 職員の共通理解を図る。 保護者からも家庭での様子を伝えてもらい、必要な場合には、外部機関と連携して児童生徒の支援にあたる。	A	特別支援学級の児童生徒について個別の指導計画や個別の支援計画を作成し、それをもとに児童生徒の実態や状況に合わせた支援を行うことができた。 保護者と連携を図り、専門機関(医師)の助言 を受けて、支援することができた。 巡回相談員やスクールカウンセラーの先生から助言を受けて児童生徒の支援に生かした。	今後も、特別支援学級の児童生徒の変容や成長に合わせて、その時に必要な支援を、医療機関等の情報をもとに保護者と連絡を密にして適切に行う。 保護者と話し合ったことや専門機関、巡回相談員やスクールカウンセラーから助言を受けたことを 今後も職員で共通理解して取り組む。

(3) 元気いっぱい・・・元気で健やかな心身を育成する。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
教育活動	○基本的生活習慣の定着	・さわやかな挨拶と返事、場に応じた礼儀 ・丁寧な掃除の定着	・立ち止まって挨拶することができる児童、生徒の割合を80%にする。 ・大きな声で返事ができる児童、生徒の割合を80%にする。 ・すみずみまで丁寧に掃除をすることができる児童生徒の割合を80%以上にする。	・挨拶運動や日常生活で挨拶の臨場指導、率先垂範を日常的・継続的に行っていく。 ・本校の実態を情報共有し、授業中の返事、立ち止まって挨拶の徹底を職員全体で共通理解する。 ・年度当初に全校で清掃オリエンテーションを行い、清掃の仕方や大切さについて指導をする。 ・清掃道具の見直しを行う。	A	・立ち止まって挨拶をしている児童生徒の割合は100%である。 ・元気のよい返事をしている児童生徒の割合は、小学生で94.4%、中学生で100%と高い値である。 ・清掃オリエンテーションで清掃の仕方や大切さについて全校で確認することができた。 ・不足している掃除道具を補充した。	・4月当初に、本校の実態を情報共有し、 授業中の返事、立ち止まって挨拶の徹底を職員全体 で共通理解する。 ・臨場指導による率先垂範を日常的・継続的に行う。
	●健康・体づくり	・望ましい食習慣の定着 ・健やかな体づくりの推進	・早寝早起き朝ご飯、歯磨きの充実に取り組む。 ・朝食喫食率100%を継続する。 ・児童生徒全員で残菜ゼロに取り組む。 ・体育の授業や朝の活動に積極的に取り組み、気力、体力の向上を図る。	・半期に一度、早寝早起き朝ご飯の調査を行い、できていない場合はお便り等で啓発を行う。 ・歯科校医と連携し、市の歯磨き指導も活用しながら、歯磨き指導を充実させる。 ・給食は残菜ゼロを継続させる。メニューによっては時間を費やす児童が多いので、家庭にも呼びかけていく。 ・外遊びを勧め、体育や朝の活動を通し、体のバランス等技能の向上につなげる。	B	・全体的に見ると早寝早起き朝ごはんを心がけている児童生徒の割合は増加していて、基本的な生活習慣の定着が見られる。 ・歯科校医、市の歯科保健教室と連携し、歯磨き指導を実施。食育懇談会で家庭へも啓発を行った結果、丁寧に歯みがきをしている児童生徒の割合は増加した。しかし、 う歯があり未受診の児童生徒は昨年度より増加 している。 ・給食については、残菜ゼロがほぼできている。 ・1年を通し、外遊びや体育科の授業、キッズタイム(朝の活動)で、 体力づくりの成果 は現れている。	・朝起きるのが遅い児童生徒については、 引き続き家庭への情報発信や啓発 を行う。 ・歯科未受診の児童生徒については引き続き受診勧奨を行う。 ・給食は、残菜ゼロの継続を目指す。時間に間に合わない児童生徒も数名いるため、「もぐもぐタイム」を設けるなど指導を継続する。 ・外遊びや体力づくりの成果が現れているので、今後も継続する。
	○心身の育成に係る環境整備	・健やかな体づくりに係る教育環境の整備	・体育施設の環境の整備に努める。 ・適正な社会体育活動や部活動の運営に取り組む。	・グラウンド、体育館、プールなどの施設の安全点検を確実に行う。 ・嬉野市教育委員会からの「部活動の在り方に関する方針」に沿って、円滑に部活動等を実施できるように努める。 ・適切に休養日を設定・実行する。	A	・全職員で毎月、安全点検を確実にし、体育施設の環境整備を行った。 ・部活動・社会体育においては、 実施計画を基に活動 し、休養日も適切に設定し実行した。	・今後も、安全点検を確実にし、児童・生徒が安全で安心した生活ができる環境を整える。 ・部活動・社会体育においては、今後も嬉野市教育委員会からの「 部活動の在り方に関する方針 」に沿って、円滑に部活動・社会体育を実施する。

(4) わくわくどきどき(交流体験)いっぱい・・・地域愛に満ちた、豊かな人間性や社会性を育てる。

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題(左記の理由)	具体的な改善策・向上策
学校運営	●志を高める教育	・地域人材を効果的に活用した教育活動の推進	・さまざまな機会をとらえて、地域住民と児童生徒との交流を行い、大野原の児童生徒は大野原地区で育てるという機運を高める。	・もち米作り、茶園作業、バイオリン教室、その他の教育活動において、地域住民と連絡を密に行い協力してもらう。 ・児童生徒のために、地域の人が関わることはないか模索しながら、地域人材を活用した教育活動を推進する。 ・学校行事等で地域住民との交流や感謝の気持ちを伝える場を設ける。	A	・もち米作り、茶園作業、バイオリン教室、老人会との交流など地域住民の協力により計画通り実施することができた。 ・3、4年生の総合的な学習の時間に 保護者2名をゲストティーチャー として招き、お茶についての話をしてもらうことができた。 ・地域住民へ感謝の気持ちを直接伝える場や機会がない。	・地域人材を活用した教育活動を推進するために、 さらに地域人材の情報 を集める。 ・お世話になっている地域の方への児童生徒の感謝の思いを伝える場を設定する。
		・地域愛を育む豊かな体験活動の充実	・郊外でボランティア活動を実施することにより、この大野原の一員としての自覚を持ち、地域をよりよくしようとする心情や態度を育てる。 ・学校行事に地域の人を招いたり、地域行事に参加したりすることにより地域の人との交流を推進する。	・おもいプラザの一層の充実(掲示物等)と、地域への周知を図る。 ・夏季休業中の空き缶・空き瓶回収や、12月の学校周辺のゴミ拾いを実施する。 ・敬老会への訪問演技、餅つき会への招待、中学生への秋祭りへの出店などを実施する。PTA、老人会、農業指導者との連携については、活動を継続するための方法について検討し改善していく。	A	・児童生徒のアンケートから、3点台後半の高得点をマークしている。大野原のよさをさらに、より良く発信できる子どもに育てたい。 ・例年どおりに 保護者や地域住民の協力によって、たくさんの行事 を開催することができた。 ・おもいプラザはよく環境が整えられ、利用者も多い。待ち合わせに使われていることが多い。	・地域行事への参加について、さらに自分たちがその行事にどんな貢献ができるかを考え、主体的に活動できる場を設定する。 ・時代の変化に合わせて、 毎年行事の在り方について検討を加える 。
		・望ましい職業観・勤労観を育むキャリア教育の推進	・児童生徒に望ましい職業観・勤労観を育む。 ・児童生徒が2030年における(グローバル化、人工知能の発達による職業の変化)を生き抜くために身につけさせるべき資質とは何かを探る。	・中学2年生で行う職場体験を中心に据え、事前・事後の学習を充実させていく。 ・進路コーナーの掲示の仕方の工夫やの掲示物の充実を図る。 ・中学生全員に進路希望調査をし、将来への夢を意識させる。 ・新しい進路指導の在り方を職員が研修して学ぶ。また、明確な目標が持てるように、高校卒業後まで意識した進路指導を行う。	A	・児童生徒のアンケートによると、学校での学習の中で、興味関心の高い教科と 将来希望する職業を結びつけて考え学習に生かしている ことが何える。 ・進路学習の掲示や資料の活用がよくできていた。 ・台風のため1日だけとなったが職場体験学習を行い、体験内容を文化祭で発表することができた。 ・10年後の家計のやりくりを想定した授業を実施した。	・本校では、モデルとなる先輩による卒業後の進路や職業観が限られてくるので、 外部の方を招いて職業に関する講話 をしていただく機会を設ける。 ・本校の児童生徒は自らよく体を動かし働くことができる。社会人になったとき非常に役立つと思われるので、この部分を伸ばしていける活動を継続していく。
	○危機管理	・安全・安心な学校づくり	・施設の安全面に十分配慮し、生活事故を未然に防止する。 ・教育相談体制を整備し、児童生徒が安心して生活できるようにする。	・危険を回避するための月1回の安全点検を確実に行う。 ・年3回の教育相談週間を設けるほか、児童生徒とゆっくり向き合って話す時間を設定する。相談したいことは、あらかじめ整理させておく。 ・困り感をもった児童生徒が迷わず相談できるような学校風土づくりを行う。	A	・月1回の安全点検を確実に実施し、すぐに修理もできた。 ・「安心して生活できている」児童生徒は、100%、「困ったことがあったときに先生に相談しようと思う」児童生徒は86.1%、「先生あのね」に書いたり相談したりする児童生徒も86.1%であった。教育相談週間の面談は、 相談したいことをあらかじめ整理 させておいたこと、 面談者(職員)を担任に限らず設定する等の工夫 ができたことが良かった。	・毎月の安全点検を今後も計画的に実施する。 ・今後も 教育相談週間 を設定し、児童生徒とゆっくり向き合って話す時間を設定する。全職員体制を整え、年間を通して計画的・継続的に取組ができるように学校風土づくりを行う。また、 職員研修を充実 させていく。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	・業務の効率化 ・子どもと向き合う時間の確保	・教職員の危機管理意識の向上を図る。	・危機管理マニュアル、消防計画についての共通理解を行い、定期的に読み合わせを行うことにより、緊急時の対応力を高める。 ・毎月10日を自己チェックの日と定め、定期・臨時に事例を用いて情報提供と対応策を図る。 ・通学・通勤路の道路状況等の自然災害に対する防災意識、防犯意識を高めるために、日頃から保護者・児童生徒・職員に対し注意喚起を行い、随時メール配信を行う。	A	・警察署、消防署から講師を招き、不審者侵入及び火災発生時における避難訓練を効果的に実施することができた。 ・毎月10日を自己チェックの日と定め、危機管理のための自己チェックを欠かさず行った。 ・ 通勤路の道路状況に応じた通勤体制 を事前に取り決め、職員・保護者に対し適時メール配信により注意喚起を行い、事故の未然防止に努めた。	・教育事務所から講師を招き、危機管理に対する研修会を実施し、各自の危機管理意識の高揚と定着を図る。 ・平時から児童生徒、保護者、職員に対し、防災意識を高めるために注意喚起を行うとともに、危機管理マニュアルを輪読し、 情報共有と危機管理意識の徹底 を図る。	
		・文書処理を効率的に行っていると答える職員を85%以上にする。 ・仕事にやりがいを感じていると答える職員を85%以上にする。	・校務サーバの運用方法を改善し、資料の参照や作成に係る文書処理を効率化する。 ・会議資料の事前検討や配布を確実にし、会議時間を遵守する。 ・学校行事については、月別に集約し、見通しが持てるように改編することで、行事や生徒指導に主体的に関わっていける環境づくり、職員のやりがい形成を図る。	A	・ 新セネット(教育システム)の運用開始にあたり職員研修 を行い、機能の周知を図るとともに、使用方法の確認をし、業務の効率化を図る意識の向上につなげた。 ・事前に会議資料を配布し目を通してもらったことで、時間内に会議を終えることができた。	・校務サーバの 運用方法を周知 し、資料の参照や作成に係る文書処理を効率化する。 ・会議資料の事前検討や配布を確実にし、会議時間を遵守する。 ・学校行事については、月別に集約し、見通しが持てるように改編することで、行事や生徒指導に主体的に関わっていける環境づくり、職員のやりがい形成を図る。	

4 本年度のまとめ ・ 次年度の取組

○全般的に見ると、昨年度の課題についての改善が図られ、評価が上がった項目が多かった。一方、学力向上に関しては、依然として課題が残っている項目もある。児童生徒の状況や実態を明確にした上で、校内研究、学力向上コーディネーター等の校務分掌上の役割分担を明確にした上で、全教職員の連携で改善を図っていく必要がある。また、家庭との連携を強化して、さらなる向上を目指したい。
○今年度も校区体育大会、文化祭、餅つき等の行事を通じて、児童生徒が地域住民とふれあう活動を継続して行うことができた。児童生徒が積極的に取り組み、表現力を高めたり、人と関わる力やコミュニケーション力を発揮したりする場とすることができた。一方、学校では行事の精選や効率化が求められている部分もある。年度末、年度当初にかけて、新教育課程の編成を行っていく中で精査し、改善を図っていく。